一代記

米の相馬屋社長

佐藤守利さん

どんな相手でも、真摯（しんし）に耳を傾け、聞くことを大切にする佐藤社長

両親から引き継いだ食料品店を、米の販売専門店に業態転換。若い頃からチャレンジ精神にあふれ、走ってきた、米の相馬屋社長、佐藤守利さん（六三）。「人の話を丹念に聞くようになってから、経営がうまく回り出した」という。販売量を当初の百倍以上に伸ばし、今なお、挑戦し続ける人生を探る。

常に挑戦の意識持つ

「トップは口閉じ、耳開く」

小名浜大原の本社兼工場で、自ら顧客対応をすることも

▽仕事を始める前はどういう若者でしたか

▼学生時代は自分に自信がなくコンプレックスがありました。体を鍛えたり、空手をやったり、腕相撲に打ち込んだり。大学卒業後にも、石段を逆立ちで下って日本一になって、テレビに出演しましたよ。

▽そうしたチャレンジ精神から商売の道へ

▼昭和五十七（一九八二）年に、実家に戻って食料品店を継ぎました。当時、米の販売量は月に三十俵（一俵六十キロ）で、市内の二百五十店中最下位。精米器を設置して、折り込みチラシを配ったり、コンピューターを導入したり試行錯誤を繰り返しました。

▽米の販売に事業を絞ったのはいつですか

▼昭和六十三（一九八八）年、結婚と同時に米専門店に業態を変えました。それから三十三年余、米一筋でやってます。

▽始めた頃と現在で、米の取扱量は

▼最初は三十俵からはじめて、現在は百倍以上の四千俵といったところでしょうか。米の収穫量は天候などにも左右されるので、多少の上下はありますが。

▽震災の影響は

▼倉庫の米が崩れたことはありましたが、幸いけが人はなく済みました。会社の前の川も津波がさかのぼってきたのか、水位は上がりましたが、浸水することはなかったんです。一昨年の台風の時も、敷地内までは水は上がらず、なんとか助かって。子どもの頃、水害にあった経験から、洪水への備えには気を配っていたおかげです。

▽昨年は自然災害とは全く

プロフィル

さとう・もりとし

1958年1月17日生まれ。駒澤大学仏教学部禅学科卒。コンピューターの導入、古代米の栽培、食品衛生管理の国際標準「HACCP」の認証取得、オリジナルブランド米の商標化など、新しいことに挑戦し続けてきた。マッサージ師の資格を持ち、腕相撲は2段。逆立ち下りの記録は66段。■相馬屋＝いわき市小名浜大原字東田33番地、電話0246－73－0078

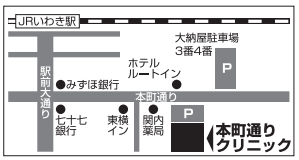
内科・放射線科・心療内科・消化器科

本町通りクリニック

全身用CT検査
胃内視鏡　もの忘れ外来

院　長　園部　清隆（内科・放射線科・消化器科）
副院長　園部　夏実（心療内科・内科）

■診療時間／月・火・水・木・金・土
AM9:00～PM1:00 PM3:00～PM7:00
（ただし土曜日は午後5時まで）
■休診日／日曜日・祝日・第1、3月曜日
いわき市平字四町目7番地
☎0246-24-7830



社団医療法人 容雅会

Nakamura Hospital

中村病院

いわき市小名浜大原字下小滝146-2
TEL.0246-53-3141

事業広げすぎ失敗も
「チームはオーケストラ」

震災で崩れた倉庫の米袋。「けが人がなかったことが不幸中の幸いだった」という

違うコロナ禍に見舞われましたが

▼外食と中食が相殺しあっているのか、全体的な取扱量に、それほど変化はないんです。それよりも、食生活の変化で、パンや麺類などが好まれるようになり、年々、米の需要が減ってきていることの影響が大きいですね。「穂穂穂」という自社ブランドの商標を取得して、おいしいお米をPRしていくなど、対策を打っています。

▽さまざまな経験を経て、若い頃と現在で経営方針に変化は

▼若い頃はとにかく失敗も多かったんです。尊敬する評論家、故佐々淳行さんの言葉に「トップは口を閉じ、耳を開け」とあるんですが、今は聞くことに力を入れています。お客様、取引先、従業員、商売に関わる全ての人から丹念に話を聞く。そう心がけるようになってから、不思議とうまくいくようになりました。

▽今だから話せる失敗談などは

▼事業を広げすぎて、カレー店をやったんですが、これは失敗しましたね。大きな負債を抱えてしまって。

▽商売、仕事の本質はなんだと思いますか

▼商売は、損か得かだけではなく、世の中のためになること、を心がけています。経営は面白い、やったらやめられません。人を使うということは、逆に自分が使われるということなんです。会社はチームで、チームはオーケストラのようなもの。自分はプレーや演奏はせずに、監督や指揮者として従業員というプレーヤー、演奏者を支え、力を発揮しやすい環境を整えることが大事だと思います。

▽今後の展望を

▼今年から米に関する新しい事業を始めようと、計画を進めているところです。新事業といっても、お米に関わる事業からは離れず、その分野での新しいビジネス。昔の成功体験は忘れてしまって、六十三歳になってもゼロからはじめる気で、チャレンジしていきます。

（和）

創業当時の同店の写真を今も社長室に飾り、初心を忘れない

佐藤マタニティー・クリニック
医学博士
産婦人科専門医
母体保護法指定医
院長　佐藤英二
〒979-0141 いわき市勿来町窪田町通１丁目124番地
TEL(0246)65－6900 FAX(0246)65－0608

医療法人　済精会
精神科・内科
長橋病院
いわき市内郷御厩町４丁目100
☎26-3526㈹